

第33回谷本清平和賞受賞者

かわさき あきら
川崎 哲 氏

【受賞理由】

○本年度第33回谷本清平和賞は、「川崎哲」氏に決定いたしました。

○川崎哲氏は、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）に参加するNGOピースボート共同代表として、また、2017年にノーベル平和賞を受賞したICANの国際運営委員として、核廃絶プロジェクトを中心に、日本から世界へ広げる「平和」のためのさまざまな活動をされています。とりわけ被爆者の声を世界に届ける活動に注力されており、2008年からは広島・長崎の被爆者の方々と船で世界を回る「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」（おりづるプロジェクト）を開始され、被爆者の方々を招き原爆被害の証言を世界各地に伝えられました。こうした活動によって、多くの国が核兵器廃絶への決意を表明し、2017年に国連総会で「核兵器禁止条約」が採択され、本年1月に発効となりました。

「核の被害は日本だけの話ではない、これは地球全体の問題である。」という視点で、核兵器の廃絶に向けて精力的に活動を続けられています。

【主な活動】

- ピースボートでは、国際交流の船旅を通じたさまざまな平和教育活動を実践しながら、2008年に「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」（おりづるプロジェクト）を開始。以来、計170名を超える広島・長崎の被爆者とともに、被爆の実相を世界に伝えてきた。このプロジェクトには、多くの若者たちも「おりづるユース」として参加している。
- 核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）では、中心メンバーとしてその国際運営を担いつつ、核兵器の非人道性に関する国際会議や核兵器禁止条約交渉会議などにおいて被爆者による証言の機会を作りその実施に取り組んできた。
- 2017年に核兵器禁止条約が採択されICANがノーベル平和賞を受賞してからは、国内外での講演や講義に力を入れている。あわせて、日本をはじめとする各国が核兵器禁止条約に加わるよう求める活動を幅広く展開している。
- 核兵器廃絶日本NGO連絡会の共同代表として、被爆者団体を含む日本のNGO間の連携強化、また日本のNGOと政府・国会議員の間の対話促進につとめてきた。
- 現在は、オンラインによる海外向け被爆証言会や、核兵器廃絶に向けた国内外の若者のトレーニング、被爆楽器を活用したイベント実施など、新しい形での継承や教育にも力を入れている。